

浜松発、介護機器開発へ

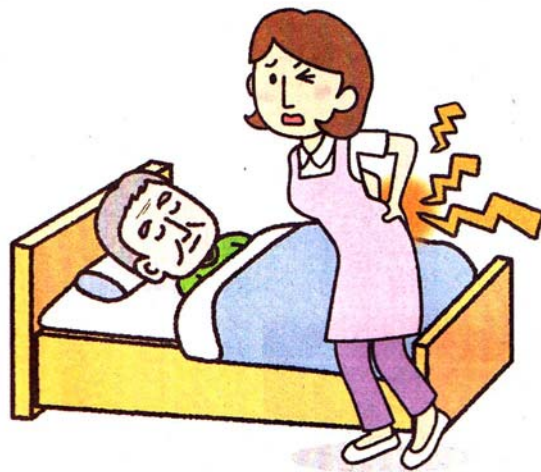
浜松市などの中小企業4社でつくる協同組合「HAMING（ハミング）」と市内の高齢者施設が連携し、介護現場の負担軽減のための福祉機器開発に乗り出すことになった。市内で9月11日に初会合を開く。ニーズを確認するための意見交換から始める予定だが、施設側からは早くも「介護時の職員の腰の負担を和らげる機器を」など切実な声も上がっている。

中小4社と高齢者施設

ハミングは同市の橋本螺子、橋本エンジニアリング、掛川市の榛葉鉄工所、島田市の岩倉溶接工業所が昨秋、個々の技術を生かしながら医療・福祉機器産業を起こそうと設立した。今回はハミングの理事長を務める橋本螺子の橋本秀比呂社長（59）と、以前から親交があり、高齢者施設などを運営する白梅会グループの寺田純久代表（59）が「浜松発の新産業を」と

の思いで意気投合したという。福祉分野でも年々、機械化の導入は進みつつあるが、導入コストなどがネックになり、大半の作業は依然、マンパワーに頼らざるを得ないのが実情。中でも、高齢者施設では、職員がベッド上の利用者の体勢を変える作業の際などに腰にかかる負担が大きく、疲労の蓄積から腰痛を患い、それを原因に退職する人も少

腰の負担を軽減



なくない。寺田代表は「職員の腰の負担を減らす器具か装置を浜松の技術力で何とできないか。そのためデータの提供、現場の協力は惜しまない」と力が入る。橋本社長は「介護現場で何が必要で、自分たちの技術で何ができるかをまずは見極める」との姿勢を示す。その上で、介護・リハビリ機器などの開発も視野に「小さな事でも具体的に形にして、浜松発の器具として国内外に売り出した」と意欲を見せた。